

第8学年〇組 音楽科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

指導教諭 〇 〇 〇 〇 印

指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 題材 曲想の違いやパートの役割を理解して歌おう ～混声三部合唱「翼をください」～

2 目標

- (1)「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2)「翼をください」の強弱・リズム・テクスチュア(音の重なり)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「翼をください」にふさわしい音楽表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3)「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりや混声合唱の響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と合わせて歌うことに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりを理解している。	思 「翼をください」の強弱・リズム・テクスチュア(音の重なり)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「翼をください」にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「翼をください」の曲想と音楽の構造との関わりや混声合唱の響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組もうとしている。
技 創意工夫を生かした表現で「翼をください」を歌うために必要な発声・身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。		

4 基盤

- (1)「翼をください」(山上路夫 作詞/村井邦彦 作曲)は、1971年に発表された日本のフォークソングを代表する曲の一つである。フォークグループ「赤い鳥」が歌ってヒットし、今なお幅広い世代に愛されている。この曲を混声三部に編曲(鶴原勇夫 編曲)したものを教材として扱う。

この混声三部合唱版は、原曲の魅力をより生かすためのさまざまな工夫が見られる。まず、**A**→**B**→**C**と曲が進むにつれて、斉唱→混声二部合唱→混声三部合唱としだいにパートが増えていくように編曲されている。また、ピアノ伴奏も**A**は4分音符のハーモニーを右手だけで弾き、**B**では右手の4分音符の刻みに左手の低音が加わり、そして**C**ではリズムが大きく変化する。これらにより、それぞれの部分の特徴を感じ取りながら、曲の構成を生かした音楽表現を創意工夫することができる。

- (2) 本学級は授業中どの教科でも挙手や発言が多く、教師の問いかけに意欲的に応える姿がある。

また、説明を聞く場面などでは、私語をせずに静かに集中して聴く姿がある。音楽の授業に対しても意欲のある生徒が多く、特に歌唱においては、しっかりと声を出す生徒が多い。合唱活動でのパート練習などもパートリーダーを中心に協力して進めることができる。しかし、一方で物静かな生徒、にぎやかな環境が苦手な生徒、歌うことが苦手な生徒もいる。そこで、そのような生徒の支援になるようグループ活動を取り入れ、協働的な学習を促したい。

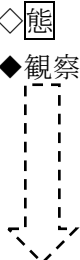
- (3) 1時間目では、まず「翼をください」の原曲と混声三部合唱版の音源を聴き、それぞれの印象をグループで話し合い、その意見を学級全体で共有する。その後、歌うための体操と発声を行い、**A**の斉唱部分を全体で歌って音を確認する。次にソプラノ、アルト、男声の3パートに分かれて**B**、**C**の部分の音取りを行う。パートでの音取りは、各パートリーダーに任せる。最後に合唱をし、音の確認をする。

2時間目は、まずパートに分かれて音の確認をしたのち、合唱をする。次に、全体で歌ったり音源を聴いたりして、強弱・リズム・テクスチュア（音の重なり）などの音楽を形づくっている要素を捉え、一人一人が感じ取ったことをワークシート1に書く。次に、ワークシート1に書いた音楽を形づくっている要素と感じ取ったことを線で結び、曲想と音楽の構造との関わりを捉える。そして、グループ内で発表し合い、意見を共有したのち、関わりを意識しながら全体で歌う。

3時間目（本時）は、どのように歌うかについて音楽表現を追求する。この時間の後半は、2つのグループでの活動を設ける。混声三部合唱が組めるようあらかじめ編成をしておき、グループリーダーも決めておく。まず、合唱をして音を確認する。次に、どのように歌うかについて一人一人が考え、思いや意図をワークシート2の楽譜に書き込む。その際に特に表現を工夫するポイントを理由とともに書く。そして、グループ内で一人一人の楽譜を提示しながらそれぞれの思いや意図、工夫のポイントと理由を発表し合い、それぞれの意見をもとに、音のつなげ方やフレーズの捉え方、パートのバランスなどを変えて歌い試しながら、ふさわしい音楽表現についてグループで考える。このとき、他のグループの声が混ざらないよう、1グループ1部屋で行う。また、伴奏CDを各グループに渡す。歌い試しながらどのように歌うかについてのグループとしての思いや意図を一人一人がワークシート3の楽譜に書き込む。最後に各グループの意見を学級全体で発表し合い、学級全体で歌い試しながら、ふさわしい音楽表現を追求する。

4時間目は、創意工夫したことをもとに合唱する。前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体で、発声や身体の使い方などをいろいろと試しながら合唱する。そして、どのように歌うかについて思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり、より具体的になったりしたところがある場合は、ワークシート3の楽譜に加筆修正する。そして最後に学習全体を振り返り、曲想と音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシート3に書く。

5 展開と評価計画（全4時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
第一 次	1	◎混声合唱の響きに関心をもつ。 ○混声三部合唱の響きに関心をもつ。 ・原曲と編曲されたものを聴いて印象を話し合う。 ○各パートの音程を捉える。 ・ A 斉唱部分を全体で歌う。 ・各パートに分かれて B ・ C 部分を歌う。 ・合唱をする。	◇ 態 ◆観察 ◇ 技 ◆観察 

第二次	2	◎音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ○音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。 ・歌ったり CD を聴いたりして、強弱・リズム・テクスチャ（音の重なり）を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴を WS 1 に書く。 ○知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲想と音楽の構造とを関わらせて歌う。 ・WS 1 に書いた音楽を形づくっている要素と感じ取ったことを線で結び、曲想と音楽の構造との関わりを意識して歌う。	◇思 ◆ワークシート	◇態 ◆観察
	3	◎強弱・リズム・テクスチャ（音の重なり）などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ○曲想と音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。 ・知覚したことと感受したこととの関わりをもとに、どのように歌うかについての思いや意図を一人一人が WS 2 の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイントを理由とともに書く。 ・グループ内でどのように歌うかについて意見交換をする。 ・意見をもとに、音のつなげ方やフレーズの捉え方、パートのバランスなどを変えて歌い試しながら、ふさわしい音楽表現について考える。 ・どのように歌うかについてのグループとしての思いや意図を一人一人が WS 3 の楽譜に書き込む。 ・各グループの意見を学級全体で発表し合い、学級全体で歌い試しながら、音楽表現について共有する。	◇思 ◆ワークシート	
第三次	4	◎創意工夫を生かして合唱する。 ○創意工夫を生かした音楽表現をするための歌い方を追求する。 ・前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわしい音楽表現となるように学級全体で、発声や身体の使い方などをいろいろと試す。 ○思いや意図をもって合唱する。 ・どのように歌うかについて思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり、より具体的になったりしたところがある場合は、WS 3 の楽譜に加筆修正する。 ○題材における学習を振り返る。 ・学習全体を振り返り、曲想と音楽の構造などに触れながら、学んだことを WS 3 に書く。	◇技 ◆演奏 ◇思 ◆ワークシート	

6 本時の学習（3／4時間）

- （1）本時の目標 強弱・リズム・テクスチャ（音の重なり）などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。（思考力・判断力・表現力等）

（2）展 開

学習場面と生徒の取組	教師の支援と評価
1. 体操と発声をする。 2. 「翼をください」を合唱する。 3. どのように歌うか考える。 ・前時に学習した知覚したことと感受したこととの関わりをもとに、どのように歌うかについての思いや意図を一人一人が WS2 の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイントを理由とともに書く。 4. グループで意見を共有する。 ・グループ内でどのように歌うかについて意見交換をする。 5. ふさわしい音楽表現をグループで追求する。 ・グループ内の意見をもとに、音のつなげ方やフレーズの捉え方、パートのバランスなどを変えて様々に歌い試しながら、ふさわしい音楽表現について考える。 ・どのように歌うかについてのグループとしての思いや意図を一人一人が WS3 の楽譜に書き込む。 6. 全体に発表する。 ・各グループの意見を学級全体で発表し合い、学級全体で歌い試しながら、音楽表現について共有する。	・体操では、号令をかけるなどして、声を出す雰囲気をつくりながら、全身をほぐすとともに立ち姿勢（背筋）を意識して行う。 ・発声では、口の開け方や呼吸、顔の表情を意識するよう促し、常に教師がしっかりとした声を発するようにする。 ・伴奏は CD を使用し、自信のないパートに対して、教師と一緒に歌う。 ・音の確認が必要な場合は、適宜行う。 ・楽譜に思いや意図を書き込む際の例を示す。 ・2つのグループ編成とそれぞれのリーダーをあらかじめ決めておく。 ・お互いに書き込んだ楽譜を見せ合いながら伝えるよう促す。 ・グループ間の声が混ざらないよう1グループ1部屋に分かれて活動する。 ・各グループに伴奏 CD を渡す。 評価（思・判・表） 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「翼をください」にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。（ワークシート） ・書き込み楽譜を全体で共有できるように実物投影機で拡大して提示する。 ・特に表現を工夫するポイント部分について学級全体で歌って試す。

